

潮

12

THE USHIO (うしお)
December, 2021

1961年11月22日第3種郵便物承認
2021年12月1日発行
毎月1回1日発行 通巻754号
https://www.usio.co.jp

二人のスーパースター 大谷選手と藤井三冠

山内昌之

やまうち ますゆき 歴史学者 武蔵野大学特任教授

コロナ禍中の癒しは、人それぞれであったに違いない。読者のなかには私と同じく、二人の若者によって救われた人も多いだろう。米国大リーグの大谷翔平選手と将棋界の藤井聡太三冠の活躍である。とにかくルールの詳細を知らず、実際に経験したこともない男女でも、毎日のようにホームランを打つ大谷選手の躍動や藤井三冠の鋭い勝負を眺めて元気づけられたのではないか。

朝に目がさめるとすぐスマホ画面を開いて大谷選手の打撃結果を知った人も多いに違いない。米國

の大きな球場で速球や変化球を苦もなく外野席にたたきこむ大谷選

手の姿は、国籍を超えてファンの心をつかんだ。しかも、昨日ホームランを打ち盗塁に成功した男が、今日は投手として活躍する二刀流なのである。人柄やマナーの良さも際立っている。シートズン当初、ボストンの球場でレッドソックスのファンがかなり酔って、「おい若い。二刀流なんぞ齒が立たないぜ。投手と打者をやるんだぞ。おっと守備もあつた」。このレッドソックス・ファンは、内心、大谷びいきだったのではないか。

大谷は野次った男の方を向いてにこつとろなずいた後、打席ですぐ左翼席越えの大ホームランを打つたのだ。野次った男は大谷を嫌いなるはずもない。敵味方を好ては、ほ全員が二十七歳の

させる糧を与えてくれるだろう。二人のスーパースターへの感謝の気持ちでいっぱいだ。

きになり、一挙手一投足がコロナ禍で苦しむ世界の清涼剤にもなった。彼が最高殊勲選手に選ばれるのは、コロナ禍に苦しむ米國社会を明るくしてくれた証でもある。

他方、将棋の藤井三冠も十九歳ながら、いま竜王戦に挑戦中である。将軍は8大タイトルも夢でない無敵の強さなのに、人間として少しも嫌味がない。それどころか、大谷と同じく人柄が謙虚そのものであり、勝つても負けても少しも動じない。いちばん苦手だった豊島将之竜王とも最近では互角に勝負するようになった。藤井三冠の指し手は、序盤では慎重に流れを読む将棋だったのに、最近では豊島竜王のように序盤から大胆に主導権を握る積極的手法に変化した。そのうえにAI将棋の戦法や棋譜をよく勉強もする。無類の

頭脳を持つ天才が努力の大家でもあり、新しい将棋の型を次々に切り拓いていく。ポスト・コロナ時代にに向けて努力する人びとは、藤井三冠の挑戦からいつも励まされる思いがするのではないか。三冠はどんなに疲れていても対局には充実感があり、一局ごとに新たな発見や課題を見出すと語ったことがある。

大谷選手と藤井三冠に共通するのは、久しぶりにスーパースターに出会った喜びを私たちに感じさせてくれることだ。スターは爽やかでないといけない。勝負にこだわらぬあまり、マナーや行儀が悪いとスーパースターになれない。この二人は、ともすればコロナで心が不安定になる人びとに明るさと楽しみを与えてくれた。これから、私たちに、日々の生活を充実